

運営推進会議における評価【令和2年度】

【事業所概要】

法人名	社会医療法人社団三思会	事業所名	看護小規模多機能型居宅介護事業いわしぐも
所在地	神奈川県厚木市戸室1丁目29番1号		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

医療・介護・福祉全体の関わりを必要とする方に対し、軽度～重度、看取りまでの対応を「一つの拠点」から「一体的なサービス」を「なじみの職員」が提供する。
訪問看護ステーションもみじと一体型2枚看板で運営しており、登録者以外のご利用者や障がいがある方、医療保険対応の訪問看護も訪問看護ステーションもみじが行っている。
職員は、認知症ケア実践者研修などにも計画的に参加しているため、認知症がある方の対応も可能である。
事業所は、介護職の特定行為が実施可能な認可を受けており、介護職は特定行為研修修了者が殆どである。
さらに、摂食嚥下訓練に特化した看護師の指導の下、摂食嚥下訓練、特別食対応も行う事が出来る。
ご利用者の生活視点でケアプランや看護・介護計画、手順書を作成し、多職種で行う総合マネジメントカンファレンスをベースとした評価・修正をこまめに行っており、個別性を踏まえた看護・介護を実践している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	令和2年 11月1日	従業者自己評価 実施人数	11 (人) ※管理者を含む
----------------	------------	-----------------	----------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	令和2年 1月21日	出席者人数 (合計)	6 (人)
出席者	☐自事業職員 (人) ☐市町村職員 (0人) ☐地域包括支援センター職員 (1人) ☐地域住民代表 (2人) ☐利用者および利用者家族 (2人) ☐知見を有する者 (1人) ☐その他 (0人)		

令和2年度 「前回の改善計画の進捗評価」

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
				自己評価	運営推進会議における意見等
Ⅰ. 事業運営の評価 (評価項目1～10)		①医療ニーズの高い利用者・家族が安心して利用できる事業所運営をめざす ②研修などで職員の技術向上の継続を支援する ③安心して働ける就業環境を整備する	・訪問看護ステーションもみじとの連携強化体制作り ・訪問介護介入の強化、退院直後の利用者様の家族指導 ・介護支援計画書作成 ・個別機能訓練の強化 ・適宜カンファレンスを行ない、各職種の意見交換の場を設ける ・コロナ情勢にて研修参加機会がなかった ・コロナ関係・災害発生時の緊急連絡網の強化	もみじとの連携強化により、医療ニーズの高い利用者を受け入れ、訪問介護介入も強化した運営が事業所の基盤として定着し始めた。介護視点での計画書がなかったため、支援計画としてICFを基盤とし作成、実践へ繋げることができるようになった。ケアプラン・看護計画・支援計画の統合性に関してはまだ課題はあるものの、安心して利用できる事業所運営の基盤になると考えている。職員の技術向上のための研修へはコロナウイルスの影響で参加できなかったものの、看護師からの介護実践指導などは利用者に合わせ行なうことができた。来年度は中長期の研修計画を立てていく。	・看護小規模多機能型の見本となるよう、お願いします。 ・職種ごとにプランを作成し、専門性を持ってプラン実施ができるようにしているのは良い。 ・医療ニーズが高い利用者も多く、看護職の指導・助言・教育が重要になるが、それぞれの職種が共通理解をしていけるように配慮していると感じられる。 ・コロナ情勢により、外部研修への参加が難しくなったと思われるが、内部研修などの工夫をしていただければと思います。
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目11～27)	①訪問看護・訪問介護の充実を図り、24時間の在宅生活を支援する ②「状況変化の予測」については家族にもできるだけ速やかに具体的な予測情報の提供と支援方法を提示する	・訪問介護介入の強化（登録者16名中7名利用） ・多職種でのカンファレンスにて情報共有し、家族に説明、共有を図る ・ケアプラン、看護計画、介護支援計画の活用 ・緊急、臨時利用の受け入れ ・看取り支援の強化	昨年度同時期の訪問介護介入は23名中9名（39%）、今年度は左記で43%介入している。訪問介護介入とケアマネジャーのモニタリングに同行することで、在宅生活のイメージが付きやすくなった。在宅生活もイメージした上で計画書作成、情報共有により、より利用者の特性や変化に応じたサービスの実践に繋げることができた。家族の状況により、臨時の利用も受け入れてきたが、職員不足での泊まり対応日が週1回になってしまっているため、泊まり対応の充実が課題として残っている。	・泊まりの対応が課題 ・家族を含めた担当者会議だと、総合理解ができると思っています。 ・職員不足による対応困難は避けていきたいところであり、人員確保ができるようにお願いしたい。 ・ケアマネもモニタリングスタイルの変化や訪問介護の介入の強化など、状況把握に努めていると感じられる。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目28～31)	①病院・施設などからの円滑な在宅生活への移行のための情報共有を強化する ②医療機関・主治医との連携を図り、体調変化時に速やかに対応できる体制を整える	・退院時カンファレンスへの参加と情報共有 ・登録前の情報共有強化 ・看護職、介護職、理学療法士等との協働と主治医、医療機関との連携 ・もみじとの連携（特別訪問看護指示書に基づく医療保険への切り替え、緊急訪問看護）	入院中から関わることにより、利用者、家族の意向に沿った在宅生活への支援をおこなうことができた。また、在宅生活が安定し、状態改善でいわずとも登録終了となった際も計画書評価や意向に沿った支援をおこなったことにより、いわしぐもでの関わりや状態を具体的に伝え引き継ぐことができるようになった。退院直後や状態変化時は主治医と連携し、医療保険での頻回な訪問看護をおこない、そこで得た情報を共有し、通いや訪問介護での支援に繋げることができた。現在、機能訓練のニーズが高い利用者の登録が多いため、もみじ・多機能型事業所にいいるの理学療法士に助言をもらいながら、通い時も機能訓練が継続できよう環境を整え始めている。	・安心して在宅生活に入れると思います。 ・早期から介入したことで、利用者、家族の意向を十分に聞き取り対応ができ、安心して利用することができている。 ・ニーズに合わせた多職種連携ができている。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目32～41)	①とむろの広場の利用団体と連携し、地域の方々とふれあえる機会を増やす ②在宅で介護をしながら生活している方々の相談や介護力向上を支援できる取組を行なう	・運営推進会議での地域状況の把握と情報共有のための迅速な回覧周知 ・とむろの広場の開放（感染対策強化） ・ホームページ、ブログ、広報誌での発信 ・訪問介護での家族指導（登録者に対して）	今年度はコロナウイルスの影響で、地域への参画がほとんどできない状態であった。運営推進会議で自治会や民生委員、地域包括支援センター、利用者代表の声を聞き取るにとどまった。とむろの広場の活用も含め、感染防止の徹底、感染防止策を基盤に置いた地域参画方法を引き続き検討していく必要がある。	・コロナウイルスに関する勉強会など開催できたら良いと思います。 ・運営推進会議も全て実施できていないので、Webの利用など方法の検討ができたらよい。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目42～44)		開所5年目の区切りとして、過去4年間の事業運営を精査し、本来求められている看護小規模多機能の役割を新たな事業展開に繋げていく	・医療ニーズの高い利用者の受け入れ ・通い・泊まり主体ではない、訪問も含めた包括的支援 ・地域参画の検討	もみじとの連携が強化され、医療ニーズの高い利用者を対象としながら柔軟なサービスを提供できる事業所の特性を活かし、利用者一人ひとりの生活環境や思いを汲みながらのサービス提供を行なうことができた。利用者の軽微な違いにも気付けるようになり、利用者の様子や情報を職員だけでなく家族にも伝達し、利用者と家族の意思・意向の反映につなげることができるようになった。しかし、介護職員不足によるサービス提供の制限、看護・介護・介護支援専門員それぞれの計画の連携が弱い、十分な機能訓練が行えていないなどの課題は残っており、職員全員での看護小規模の役割遂行と運営に取り組んでいく必要がある。	・医療ニーズの高い利用者を受け入れているため、看護職の充実はあるそうだが、介護職不足により、サービス提供が制限されてしまっている。 ・介護職にICFを基盤とした支援計画など介護職のスキルアップに繋がる教育もされていると思うので、引き続き介護職の働きやすい環境づくりと離職防止を図れると良い。

令和2年度の評価表「事業所自己評価・運営推進会議における評価」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない	
Ⅰ 事業運営の評価【適切な事業運営】						
(1)理念等の明確化						
①看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の計画策とその実践						
1	○サービスの求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」「②在宅での看取りの支援」「③生活機能の維持回復」「④家族の負担軽減」「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	○				・もみじと一体となって医療ニーズが高くなっていると思います。更なる向上を期待しています。 ・理念・支援方針は明確にされています ・在宅生活を中心に支援する体制に移行したことにより、①～⑤の理念を実践に生かせている。
		【具体的な状況・取組内容】 ＜いわずとも基本理念＞ 「暮らし・つながり・その人らしさを大切にする在宅総合サービス」 ＜支援方針＞ ・安心・安楽な生涯を通し「暮らし」を支える自立支援 ・人権を尊重し、その人らしい人生を全うできるように支援する ・家族・地域社会と「ふれあい」「つながり」できる環境づくり ・地域に愛され信頼され親しまれるケアサービスの提供 ・スタッフ一人一人が自己研鑽し、楽しく元気に働く職場 訪問看護ステーションもみじ（以下、もみじ）と一体型となり、医療ニーズの高い利用者・家族の在宅療養における全般的な支援、訪問介護の充実・質の確保を目標とし、通いや宿泊中心ではなく、在宅生活を中心に支援する体制に移行していく取組をおこなった。 退院直後や介護力向上に特に支援を必要とするケースに対応し家族・本人の希望での在宅生活を支える上で支援に取り組めてきている。 また、医療ケア（経管栄養、吸引、褥創、排便ケアなど）の多い利用者に対し、各職種で連携をとりながら継続し、統一した関わりができるように心がけて取り組んでいる。				
2	○サービスの特徴及び事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○			・一人ひとりが事業の理念を理解するために努力し取り組んでいると思います ・理念、支援方針を明確にし実践されている ・支援するスタッフが職種に関係なく指導や助言が受けられる体制は良い。理解の差に関しては、スタッフの力を合わせて指導していただき、今後のサービス提供で活躍される事を期待します。
(2)人材の育成						
①専門技術の向上のための取組						
3	○職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している。		○			・一人ひとりの研鑽や経験を話し合っって育成計画を作成して取り組んでほしいと思います。 ・職員の個人差は多少あるとしても、その努力は評価される。 ・職員（個人）それぞれに、利用者からの評価（良いことのみ）もあれば励みになると思います。 ・育成計画が実施されていなかったり、更新されていない背景としてなにがあるのか対策について検討お願いします。
4	○法人内外の研修を受ける機会を育成計画に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している。			○		・コロナ禍で計画が進んでいないので、一日もはやい収束を願っています。 ・令和2年度はコロナウイルス感染防止上計画通りになされていない。 ・今は行えませんが、研修は重要と考え、特に外部の方との情報交換の場となるので大切だとおもいます。 ・次年度もコロナの影響が続くと考えられ、集団研修のみではなく、Webなどの活用で研修に参加できる体制をやっていただけたらと思います。

②介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保					
5	○介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている。	○			・申し送りやカンファレンスで情報の共有はできていると思います。 ・定期カンファレンス、必要により都度サービスの提供ができるようにしておられます。 ・話し合いの場、カンファレンスは大切だと思います。 ・共通理解のためのカンファレンスを多数で行なうのは業務などで大変だと思います。総合カンファレンスが上手く機能していないなどの意見があるので、実践と結びつきやすいカンファレンスが実施できると良いのではないかと。
【具体的な状況・取組内容】 施設内他事業所との情報共有に関しては、管理者間での情報共有により、同施設内の事業所間での伝達がスムーズにできるようになっている。また、法人掲示板、記録物の回覧等、多くの情報手段が整っている。いわしぐも内では、毎日の朝礼・申し送り、必要時のカンファレンスの実施、月1回の会議をおこなっている。また、居宅サービス計画書、看護計画書、支援計画書を職員間で閲覧・共有することができるように環境調整をおこなった。月末に各利用者に対し総合評価を行い、定期的なカンファレンスの実施により、サービス提供内容を検討。利用者の状態や環境の変化によりその都度必要なサービス提供ができるよう調整を心がけた。しかし、総合カンファレンスがうまく機能していない、記録などの漏れが生じている、日常的なカンファレンスは行えていない等の意見もあった。引き続き共有機会の確保と共有内容の質の向上を図っていく必要がある。					

③組織体制の構築					
①運営推進会議で得られた意見等の反映					
6	○運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている。	○			・要望や助言はできていないと思います。地域の掌握できている情報のみの報告をしています。 ・コロナウイルス感染拡大の中、大変ご苦労様です。運営会議での職員の苦労や意見も出し合い改善策を検討していただきたい。 ・地域の中にある施設として地域住民からは様々な面で期待されていると思います。利用者のみならず、地域住民が頼れる施設と考えているので、要望や助言がサービスへ反映されると良いです。
【具体的な状況・取組内容】 新型コロナウイルスの影響で、感染対策が必要な中での会議開催となっている。会議には事業所各職の職員も参加するようにしている。議事録の回覧により、職員全員が助言・要望に目を通せるようにしているが、運営推進会議が事業所や各地域の現状報告で終わってしまっていることが多い、人員の確保ができておらずサービスに反映できていないところも否めず、運営推進会議での要望や助言をサービスに反映できるよう、体制強化や会議進行方法などを検討していく必要がある。					

④職員が安心して働くことができる就業環境の整備					
7	○職員が安心して働くことができる就業環境の整備に努めている。	○			・安心して働ける環境づくりに努力されていると思います。 ・運営委員として言いたい事は、介護職員の仕事の中身からして報酬が低すぎると思います（政治の課題かもしれませんが） ・職員の補充が根本的な解決策だと思います。 ・就業者の数が足りているのか ・医療ケアが多い利用者も多いため、知識があまりない介護職の負担は大きいと思います。今後も看護・介護が協力しながら支援できるように働く環境を整える視点でも今行なっている指導や教育は継続してほしいです。
【具体的な状況・取組内容】 職員用の常設意見箱を設置し、業務上での意見を常時受け付け、対応が可能なものから順次対応していく体制がある。今年度は感染対策の補助金を使いながら環境整備を行い、利用者だけではなく職員の感染予防への対応も実施した。事業所間の連絡システムを明確にし、伝達事項の迅速な提供ができる対応をしている。会議や個別相談、面談対応を実施し適宜対応している。また、職員同士お互いの思いや意見が言える環境、お互いがカバーしあって安全に仕事ができる環境づくりに努めている。イレギュラーなことがない限りは定時に退社できているが、職員の定着ができておらず、精神的負担が大きいことは否めない状況である。					

④情報提供・共有のための基盤整備					
①利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための基盤整備					
8	○利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている。	○			・利用者の情報共有の工夫に取り組んでほしいと思います。 ・現場情報を早くするため、タブレット導入を急いでください ・業務が忙しい中記録をすることは大変だと思いますが、情報共有のひとつとして記録ができる時間をつくるなどの工夫で記録漏れのないようにしていただけたらと思います。
【具体的な状況・取組内容】 デスクトップ型のパソコン以外にタブレット端末を導入。随時情報の入力や把握が可能な環境を整えている。現在、もみじから導入しており、外に持ち出して利用することは禁止しているが、今後訪問時にセキュリティを保持しながら活用していく方法を検討している。いわしぐもでは日々のパソコンなどの記録で把握するように努めているが、紹介から登録までの期間が短い新規の情報や、各手順書・計画書など状態によって変化しているものは変更が遅くなることがある。また、記録漏れや各職種間での情報共有が弱いところがあるとの意見もあり、共有の工夫を引き続き検討していく必要がある。					

⑤安全管理の徹底					
①各種の事故に対する安全管理					
9	○サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている。	○			・安全対策は充分にとられていると思います。事故は少ない、殆んどないと思います。 ・事故の予測と防止と、発生したら即報告の対処をお願いします ・ヒヤリハット・アクシデントに対して迅速にカンファレンスを開き、情報共有、対応策の措置が図られている。
【具体的な状況・取組内容】 事故防止策として申し送りや2人以上で確認を意識しておこなうようにしている。インシデント・アクシデント発生時は報告書を作成、当日または翌日までにカンファレンスで対応を検討している。予防・解決策については全員に周知されるよう努めてきた。報告書は施設内安全管理委員会で取りまとめ、他事業所との共有や、データとして保管し再発防止に役立てている。また、管理マニュアルや事故発生時のマニュアルがあり、施設長、所長（管理者）への相談、報告、連絡を確実に実施し指示を仰いでいる。利用者からのクレームに対し、クレーム回避対策を職員の中から立案し実践した。併せて本人の意向を聞きながら施設としての意向も伝えた事例もあった。					

②災害等の緊急時の体制の構築						
10	○災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方法が共有されている。	【具体的な状況・取組内容】 事業所がある複合型施設の災害対策マニュアルにのっとり、事業所の特性を踏まえた対策をマニュアル作成している。もみじと連携し利用者ごとの医療機器使用状況の確認や、災害時の緊急対応についての情報の準備を整えている。が伝達できる環境も整え、コロナの感染疑いの情報などは速やかに伝達された。防災訓練は年2回実施予定としているが、今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、大規模なものはできていない。災害時のマニュアルはあるが、サービス提供継続の具体的な方針かどうかは疑問がある、マニュアルはあるが把握できていないとの意見もあり、引き続き見直し検討していく必要がある。	○			- 様々なツールで対応方法は共有されていると思います。 - マニュアル完備、活用されていますが、慣れていない点もあり。地震災害時、携帯が繋がらなくなった時の無線機の完備も必要です。 - 今年度はコロナ対策への対応など感染予防に対する対策が図られている。濃厚接触者の恐れや陽性者が発生した際のマニュアルなどができていたと思われる。法人との協力を得ながら、関係機関との対応方法の共有を進めていければよい。防災訓練に関しては実施だけではなく、シュミレーションが定期的に行ない、対応していくのもよいのではないかと。
Ⅱ サービス提供等の評価						
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供						
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成						
①利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施						
11	○在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている。	【具体的な状況・取組内容】 看護計画、支援計画を作成し、職員間で情報共有することで、暮らしに着目した視点での支援ができるように体制を整えた。訪問を強化することによって早期に支援点が明確になり、より具体的なアセスメントが可能となっている。職員体制の関係で泊まり回数が少なくなり、24時間の関わりが少なくなってしまうているが、各職種の意見を聞きながらその利用者の24時間をイメージしながらの支援計画ができるよう努めている。しかし、情報が少ない利用者もいるため、アセスメントができていないこともある。	○			- 具体的なアセスメントが行なわれていると思います。 - 訪問看護、介護の対応計画はよくできているが、職員不足で苦労が多く工数補充が必要。 - アセスメントの視点の工夫や訪問の強化により支援内容の明確が図られている。
12	○介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている。	【具体的な状況・取組内容】 定期的な総合マネジメントカンファレンスを開催し、各職種間だけではなく、複合型施設内PT等にも助言を受け共有できるようにしている。看護計画書だけではなく、介護視点での支援計画を作成し、具体的な支援内容の共有ができるようにしている。課題が発生した際はカワルスを実施しサービス調整をおこない、看護、介護が介入する時間や内容を検討している。嚥下訓練が必要な利用者に対して、どのような形状や食事・水分提供がいいか、話し合いを持つことができた反面、共有ツールの記録漏れがあり、共有できないこともあった。	○			- 両職種でのアセスメントの共有はできていると思います。 - ご苦労様です - 総合マネジメントカンファレンスを行ない各職種間の情報共有ができている。記録漏れはもったいないので記録漏れを防いでいく対策を検討していただきたい。
②利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成						
13	○家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている。	【具体的な状況・取組内容】 利用開始前の情報収集と、職種間との情報共有を確実に実施している。利用後も定期的な「レク」を含め、その都度どうありたいかの確認をし体調や生活状況を常時各職種が情報収集しながら計画の修正や追加などを実施している。介護職による生活支援計画書を作成開始、今後は運用できるように進めている。	○			- 利用者の情報収集は出来ていて、計画が進められていると思います。 - 本人と家族の意見の相違調整が大変だと思います。 - 会議ではなく、気軽に相談や話することにより、家族の意向を知ることができると思います。 - 利用者・家族の実情を踏まえた計画が作成されている。
14	○利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている。	【具体的な状況・取組内容】 利用者ごとに、ケアプラン、看護計画、ICF(国際生活機能分類)を活用した介護視点での支援計画を作成。日常生活動作の低下予防に努め、低下した際は維持、向上するための援助の工夫を総合マネジメントカンファレンスで各職種間の意見を基に検討し、日々の申し送りやミニカンファレンス等で状況に応じ適宜計画の修正や追加を実施している。また、必要時は複合型施設内PTに相談し、評価や指示を受けて計画に反映している。しかし、利用者・職員間の考え方のズレがあることもある。	○			- 利用者と職員で同じ目標が持てるように計画を立ててほしいと思います。 - 機能回復対応ご苦労様です。 - 介護職・看護職・家族でカンファレンスの場を開いてほしい。 - 各職種で計画の立案、総合マネジメントカンファレンスで評価・修正をしていて、充実している。
③利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理踏まえた計画の作成						
15	○利用者の今後の状況変化の予測と、リスクを踏まえた計画が作成されている。	【具体的な状況・取組内容】 生命の危機や家族の介護能力の低下があった際は、早期に主治医へ報告・相談し今後について家族と話し合いを行っている。家族の思いを汲みながら計画変更をしている。	○			- 家族の思いを汲みながら計画されていると思います。 - 利用者の変化を見ながら対応計画が立てられている。 - 状況変化に対する計画、修正が図られている。主治医との情報共有を行ない、医療的な予後予測が計画に組み込まれている。

(2)利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践						
①継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映						
16	○サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている。	○				・情報共有ができ、対応していると思います。 ・変化を早期に把握し計画に反映されている。 ・日々のカンファレンスでの情報共有により、今後の状況変化を予測した計画の立案、修正を行なっている。
②居宅への訪問を含む、利用者の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映						
17	○通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している。	○				・より詳しい情報を共有するために取り組んでいると思います。 ・コロナ禍大変な中、皆様ご苦労様です。 ・現場の介護職員の方も利用者の自宅の様子や環境を見ることが必要だと思います。逆にいわずもでの様子も自由に家族が見られるようにできたら情報交換になると思います。 ・介護度が高い利用者が多く、家族の負担軽減のために通いのサービスを希望されることが多い在宅での状況を把握していただき、サービスに生かしていただきたいと思います。
③利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有						
18	○利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている。	○				・関係多職種と情報が共有されていると思います。 ・主治医等との連携で柔軟な対応が取れている。 ・関係する他職種との連携が図られている。状況変化などの情報提供が適切に行なわれている。
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供						
①介護職と看護職の相互の専門性を活かした柔軟なサービスの提供						
19	○介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている。	○				・柔軟な役割分担はできていると思います。 ・看護・介護両職種間で情報交換を適切に役割分担している。 ・生活面と体調面とをそれぞれ両面から見ていただけるのは安心です。 ・それぞれの職種に専門性に応じた役割分担ができている。
20	○利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど。両職種間の連携が行われている。	○				・ツールやカンファレンスで情報交換はできていると思います。 ・日々の情報交換で看護・介護の連携強化している。 ・忙しいとは思いますが、カンファレンスは大切だと思います。 ・日々のカンファレンスから看護・介護が情報共有しあい、日々のケアに活用できている。
②看護職から介護職への情報提供および提案						
21	○看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている。	○				・連携が取れ、情報や提案が共有できていると思います。 ・看護師の専門的見地から介護職への情報提供がされている。 ・もみじの看護師といわしぐもの介護職との連携はいわしぐもの強みだと思うのでとても良いと思います。 ・看護職から医療についての情報共有や必要時ケア内容の指導ができています。
(4)利用者等との情報及び意識の共有						
①利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供						
22	○サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている。	○				・良く話を聞いてもらえる等の利用者の声もあり、理解が得られていると思います。 ・利用者、家族の理解も良く理解が得られるように説明されている。 ・在宅でのサービス計画が立てられわかり易く説明されている。 ・利用者に関わる人たち全員で話し合いの場があるといい。 ・サービスについての説明は十分にできている。

②利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明					
23	○作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている。	○			・わかりやすい説明等で理解が得られていると思います。 ・住宅環境や生活状況に合わせた方法が取られています。 ・担当看護師など相談しやすい環境を作っている ・利用者や家族からの悩みごとや困った事に対してアドバイスややり方を丁寧に伝えられている。利用者の不安軽減につながっている。
24	○利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている。	○			・処置や手当ては利用者の理解が得られていると思います。 ・病状の変化、終末期等主治医との連携と適切な対応をしている。 ・訪問からの情報なども共有し、状況の確認ができています。 ・自宅と同じように実施できるように配慮している事は良いと思います。
③重度化した場合や終末期における対応方針、利用者等との相談と共有					
25	○利用者本人(意思決定・表示ができない場合は家族等)の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している。	○			・利用者・家族の意向をきちんと把握しサービスにつなげていると思います。 ・本人、家族の意向も聞きながら状況に応じて主治医と連携し対応している。 ・体制を早く整えてください ・利用者・家族の意向を尊重したサービス提供ができています。
26	○在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている。	○			・利用者家族と相談・共有ができています。 ・モニタリング訪問時に本人家族状況を踏まえ、予測される課題への対応ができています。
27	○終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の移行等を記録として残している。	○			・利用者家族への説明と不安軽減ができるよう対応していると思います。 ・終末期、主治医と連携を取りながら対応され、家族への説明、経過記録も適切になされています。 ・家族や利用者が不安がないように適切な時期に説明を行ったり、精神的なケアができています。
2. 多機関・多職種との連携					
(1)病院・施設等との連携による切れ目のないケアの提供					
①病院・施設等との連携や情報共有による、在宅生活への円滑な移行					
28	○病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している。	○			・在宅生活移行への支援はできていると思います。 ・病院での回復経過など、本人・家族に説明し、在宅生活への安心移行がなされている。 ・入院時から介入することで退院後のイメージをつきやすくするように説明できている。情報も連携しながら共有できている。
②入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有					
29	○すべての利用者について、緊急時の対応方針を、主治医等と相談・共有することができる。	○			・緊急時の対応はできていると思います。 ・緊急時の対応は、訪問看護師が対応し、医師と相談、即座に対応方針が取れています。 ・看護師が中心となって主治医と相談、情報共有ができています。
③地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築					
30	○地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている。	○			・即座の対応が可能になっていると思います。 ・コロナ禍での対応連携が心配される ・緊急時に備え、主治医との連携や契約医療機関との調整ができています。

(2)多職種との連携体制の構築						
①運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討						
31	○運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報発信や提案が行われている	【具体的な状況・取組内容】 運営推進会議において、包括的なサポートの情報提供や提案までに至っていない。地域のサポート体制や地域情勢について職種を越え理解していけるような取組をおこなっていく必要がある。今年度は新型コロナウィルスの影響で、スムーズに会議や交流ができていない。	○			・コロナ禍での会議の回数は減り、情報交換のみになっております。 ・会議での質問、意見、提案はなされている。コロナ禍での影響大。 ・会議の開催が難しく、状況報告のみになっている。
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画						
(1)地域への積極的な情報発信及び提案						
①サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信						
32	○運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている。	【具体的な状況・取組内容】 会議録を作成し、掲示。職員間で回覧・情報発信を行っているが、内容については把握できていないところもある。	○			・会議録をいただいています。 ・会議資料で説明されている。 ・議事録の回覧などを行ない、情報発信が行なわれている。
33	○サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている。	【具体的な状況・取組内容】 ホームページ、ブログ、広報誌などでリアルタイムに発信している。複合型施設としての催し物を年数回開催しているが、今年は新型コロナウィルス感染症予防のため、大規模な催し物は自粛している。	○			・コロナ禍のため、大きな地域交流はできない状況にあります。 ・地域向けの広報誌など発行されている。 ・催し事が難しい状況であるため、代替案の検討が必要。
(2)医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮						
①看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供						
34	○看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している。	【具体的な状況・取組内容】 もみじが、登録者以外を対象とした訪問看護を月600～800件実施しており、積極的におこなっている。	○			・訪問看護は積極的に行なわれていると思います。 ・コロナ禍でも頑張っておられご苦労様です。 ・介護保険・医療保険で登録者以外の訪問看護ができています。
(2)医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ						
35	○「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている。	【具体的な状況・取組内容】 介護職の半数は三号研修を修了しているが、対象者が少なく、受け入れ人数は少ない現状あり。今度訪問介護でもニーズが増えることは十分予測される。今年度に関してはコロナの影響で研修が中止になっており、研修実施者はまだいないが、受け入れを増やしていくために一号研修取得を目指して行く必要がある。もみじの看護師が指導可能な研修を受けているため、実地研修も含めて事業所で取得可能な体制を整えていく予定である。通いの環境としては、吸引器を一人一台使用できる環境にある。	○			・対象者が少ないが、環境は整っていると思います。 ・看護職のみではなく、介護職も吸引ができるように体制を整えていただきたい。感染予防の観点からも十分な機材の準備ができています。
36	○「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている。	【具体的な状況・取組内容】 もみじと連携しており、看護師の対応は可能。しかし、人員確保の観点から、泊まりでの対応は限定される現状でもある。現在まで受け入れの実績はなく、介護職の受け入れ体制は整えていく必要あり、現状では積極的といえる状況には至っていない。	○			・受け入れが少なく、これから整えていく状況だと思います。 ・可能な範囲で受け入れをしていただけたらと思います。
37	○「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている。	【具体的な状況・取組内容】 本年4月以降3件の看取りを実施している。もみじと連携し、看取りパンフレットの使用や、終末期に関する支援について職種間で情報共有し計画することができている。計画を基に本人や家族が最後まで安心して自宅で過ごすことができるよう必要な援助を検討し介入している。緊急時対応の連絡系統も利用者ごとに示していて、受け入れ体制は整っている。泊まりが限定されているため、施設を利用しての看取り体制は整っていない。	○			・体制は整っていると思います。 ・本人家族が安心して自宅での看取り支援ができているが、施設での対応が整っていないのが不安。 ・泊まりが限定されていても、施設での看取りは可能にしてほしいし、可能にすべきだと思います。 ・看取りの場にこだわらず、利用者にあった看取りが実践できている。
(3)地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画						
①行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解						
38	○管理者および職員が、行政が介護保険事業計画で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している。	【具体的な状況・取組内容】 地域包括ケアシステムに関する情報提供、研修参加で周知はしているが、個人差はあり。職員が地域包括に関わることが少ない現状にある。職員間での理解度に応じた事業所内でのミニ講座などを今後開催し、さらに深めていく必要がある。	○			・地域包括ケアシステムは地域でもこれからの課題になっています。 ・地域包括システムの構築を充実させてください。 ・Webなどを利用し、行政や地域包括支援センターを活用してケアシステムの理解を深めてほしい。

②サービス提供における、(特定の建物に限定しない)地域への展開					
39	○サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している。	○			・積極的にサービス提供を市内に広げていると思います。 ・市全域にサービス提供している。
③安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等					
40	○介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている。		○		・コロナ禍で地域への大きく提供する機会はなかったと思います。 ・コロナウイルス感染予防のため、殆んど中止。 ・コロナの終息の後、再開してほしい。 ・運営推進会議をはじめ、集団での活動が難しく、事業所が閉鎖的にならないよう、地域に対しても目を配ってほしい。
41	○家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている。		○		・近隣住民に対してはコロナ禍のため、具体的な取組はできなかったと思います。 ・コロナウイルス感染防止のため、殆んど中止。 ・コロナの終息の後、再開してほしい。 ・コロナウイルスにより地域との交流ができない状況にあるが、発信していく方法を検討していただきたい。 ・利用者家族はいつでも見学可にしてほしい
Ⅱ 結果評価					
①計画目標の達成					
42	○サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている。	2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている			・支援計画は進めている状況だと思います。 ・カンファレンスを適宜行いながら、計画の評価修正し、利用者毎の目標が達成されている。
②在宅での療養生活の継続に対する安心感					
43	○サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている。	2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている			・利用者からは安心感が得られている状況だと思います。 ・担当者をつけてほしい。 ・サービスへの説明や対応に対して利用者・家族からの評価も高く、安心感が得られている。
44	○サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている。	2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている			・利用者家族への支援内容をタイムリーに調整する事で安心感が得られている状況だと思います。 ・事業所内での看取りは以前は可能でしたが、現在是因为のため不安な部分がある。 ・利用者から家族の立場にたって対応してもらっている、てきぱきと対応してもらっているなど、状況に応じた対応ができています。

令和2年度の「評価結果」および「改善計画」

項目		改善計画	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目1～10)		①在宅療養を中心とした支援を強化し、訪問看護ステーションもみじとの連携の中で、医療ニーズの高い利用者や退院直後の在宅移行期への支援、看取りまで、安心した利用ができる施設運営の継続を目指す ②オンライン等使用しながら施設外研修への参加を実現させるとともに、事業所内勉強会を充実させ、職種ごとの専門性や技術向上を目指す ③具体的な育成計画の作成と運用による教育を充実させる。事業所の特徴を職員一人一人が理解し、サービス提供できる環境作りをすることで、モチベーション維持と離職予防を目指す	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、運営推進会議開催困難にて、直接のご意見はいただけていない
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目11～27)	①訪問看護、訪問介護の充実と、24時間緊急時対応による在宅生活支援の継続 ②利用者の体調や生活状況の変化に対応し、安定したサービス提供の実現を目指す ③現状と、予測できる状況について、利用者やその家族に具体的に情報提供と支援内容を提示し、必要とするサービス提供につなげることができる	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、運営推進会議開催困難にて、直接のご意見はいただけていない
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目28～31)	①病院、施設などからの円滑な在宅生活移行への情報共有を継続していく ②訪問看護ステーションもみじ、医療機関や主治医との連携をはかり、体調変化時に速やかに対応できる体制を維持する ③職種それぞれの専門性を生かした情報交換が積極的に行える職場環境を整える	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、運営推進会議開催困難にて、直接のご意見はいただけていない
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目32～41)	①とむろの広場の利用団体と連携し、Web活用も視野に入れた地域住民との交流を目指す ②感染症対策や防災訓練等、地域での取り組みと合わせた活動を目指す ③在宅生活における困りごとや相談を受けられる取り組みの検討	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、運営推進会議開催困難にて、直接のご意見はいただけていない
III. 結果評価 (評価項目42～44)		①看護小規模多機能の役割として、医療ニーズの高い利用者の受け入れを継続し、在宅生活を中心とし、状況に応じて柔軟に対応し、安定したサービス提供を実現していく ②利用者や家族の意思・意向を大切にし、「住み慣れた場所での生活」を実現できる支援を多職種で実現していく	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、運営推進会議開催困難にて、直接のご意見はいただけていない